

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 27 年 2 月 7 日 13 時 15 分 ~ 15 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 62 問で解答時間は正味 1 時間 45 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2) の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2) の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑 法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例 2) 102 医師法で医師の義務とされているのはどれか。2 つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 医業従事地の届出
- e 医療提供時の適切な説明

(例 1) の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

101		101
<input type="radio"/> a		<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b		<input type="radio"/> b
<input checked="" type="radio"/> c	→	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> d		<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e		<input type="radio"/> e

(例 2) の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **(b)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
102	<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

102		102
<input type="radio"/> a		<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b		<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> c	→	<input type="radio"/> c
<input type="radio"/> d		<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/> e		<input type="radio"/> e

(2) (例3) では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3) の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3) の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(e)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
103	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/>

答案用紙②の場合、

103	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/>
	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
	<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/>
	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
	<input type="radio"/> e	<input type="radio"/>

(3) 計算問題については、 に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 68歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長150 cm、体重76.5 kg (1か月前は75 kg)、腹囲85 cm。体脂肪率35 %。

この患者のBMI(Body Mass Index)を求めよ。

解答：① ②

(例4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の③を②は④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104	①	0	1	2	●	4	5	6	7	8	9
	②	0	1	2	3	●	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

104	①	②
	0	0
	1	1
	2	2
	●	3
	4	●
	5	5
	6	6
	7	7
	8	8
	9	9

- 1 対麻痺患者の参加制約にあたるのはどれか。
 - a 抑うつ気分になる。
 - b 仙骨部に褥瘡がある。
 - c 1日4回自己導尿している。
 - d 移動には電動車椅子が必要である。
 - e 3段の段差のあるカフェで会食できない。

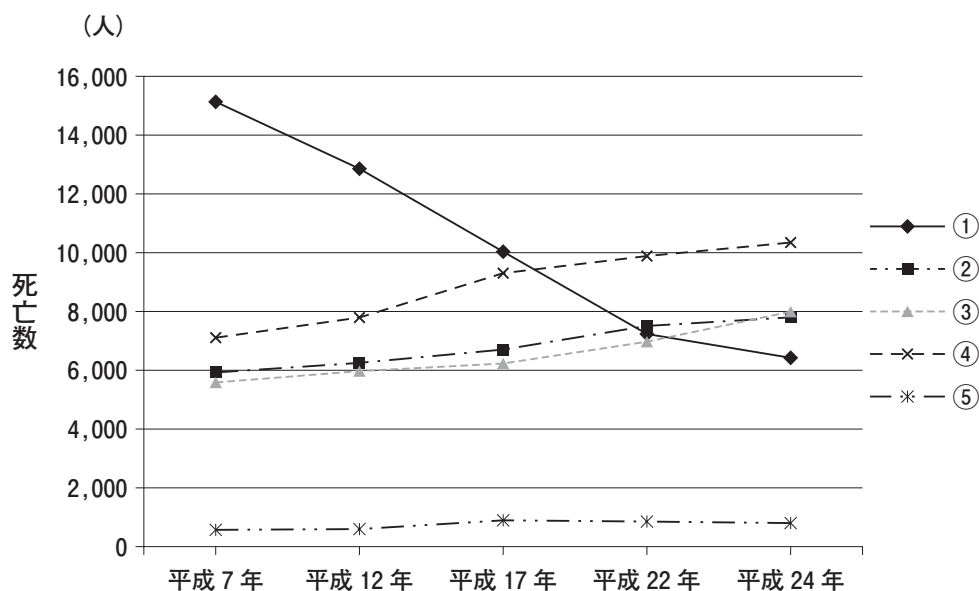
- 2 在宅ケアについて正しいのはどれか。
 - a 人工呼吸療法は在宅で可能である。
 - b ケアプランは介護福祉士が作成する。
 - c 訪問介護には医師の指示書が必要である。
 - d 往診は計画的・定期的に行う在宅医療である。
 - e 通所リハビリテーションには医療保険が適用される。

- 3 リハビリテーションに重点が置かれているのはどれか。
 - a グループホーム
 - b 有料老人ホーム
 - c 介護老人保健施設
 - d 介護老人福祉施設
 - e 軽費老人ホーム〈ケアハウス〉

4 世界保健機関(WHO)について正しいのはどれか。

- a 識字率を向上させる。
- b 難民の帰還支援を行う。
- c 食糧を安定的に供給する。
- d 医薬品の安全性を向上させる。
- e 労働者の作業環境を改善させる。

5 不慮の事故のうち、「交通事故」、「転倒・転落」、「溺死及び溺水」、「窒息」、「中毒」の5種類における死亡数の年次推移を図に示す。



①の予防になるのはどれか。

- a 高温での長湯を避ける。
- b 容器のラベルをよく読む。
- c 階段では手すりにつかまる。
- d シートベルト装着を遵守する。
- e 食べ物は小さく切ってよくかんで食べる。

- 6 児童相談所の業務はどれか。
- a 乳児健康診査の実施
 - b 就学时健康診断の通知
 - c 保護者に定期予防接種を通知
 - d 被虐待児に対し家庭からの一時保護
 - e 小児慢性特定疾患に関する医療費助成
- 7 我が国の感染症対策において発生数の全数把握を行っているのはどれか。
- a 結核
 - b 手足口病
 - c 突発性発疹
 - d インフルエンザ
 - e ヘルパンギーナ
- 8 水道法に基づく水質基準で検出されないことと規定されているのはどれか。
- a 塩素酸
 - b 大腸菌
 - c カルシウム
 - d マグネシウム
 - e 総トリハロメタン

- 9 蝶形骨にあるのはどれか。
- a 篩板
 - b 内耳道
 - c 頸静脈孔
 - d 上眼窩裂
 - e 舌下神経管
- 10 大動脈弓の高さにおける解剖学的位置関係で誤っているのはどれか。
- a 胸腺は食道より前方に位置する。
 - b 気管は食道より前方に位置する。
 - c 横隔神経は椎体より前方に位置する。
 - d 上大静脈は気管より前方に位置する。
 - e 交感神経幹は大動脈弓より前方に位置する。
- 11 器質性精神障害に特徴的なのはどれか。
- a 保続
 - b 観念奔逸
 - c 思考制止
 - d 自生思考
 - e 情動麻痺

- 12 糖代謝の臨床的評価で正しいのはどれか。
- a ケトン体は蛋白分解の亢進で増加する。
 - b 血糖値は静脈血の方が毛細血管より高い。
 - c 尿糖は血糖 150 mg/dL を超えると陽性を示す。
 - d インスリン分泌能は尿中 C ペプチド排泄量で評価する。
 - e インスリン抵抗性は BMI (Body Mass Index) で評価する。
- 13 日齢 10 の新生児で日齢 0 の新生児より低値を示すのはどれか。
- a AST
 - b 白血球
 - c 血小板
 - d 総ビリルビン
 - e 血中クレアチニン
- 14 思春期前後の男子において誤っているのはどれか。
- a 女子より思春期到来が早い。
 - b 声変りの前に恥毛が発生する。
 - c 女子より骨端線の閉鎖が早い。
 - d 二次性徴は Tanner 分類で評価する。
 - e 二次性徴の開始時には精巣容積が増大する。

- 15 隣接遺伝子症候群はどれか。
- a Sotos 症候群
 - b Down 症候群
 - c Turner 症候群
 - d Klinefelter 症候群
 - e Prader-Willi 症候群
- 16 好中球の異常によるのはどれか。
- a 慢性肉芽腫症
 - b DiGeorge 症候群
 - c 毛細血管拡張性失調症
 - d Wiskott-Aldrich 症候群
 - e X連鎖無ガンマグロブリン血症
- 17 造影剤腎症の発生に関係がないのはどれか。
- a 年 齢
 - b 腎機能
 - c 検査前の飲水量
 - d 造影剤の投与量
 - e 気管支喘息の既往

- 18 医療計画に含まれないのはどれか。
- a 監察医の確保
 - b 救急医療の確保
 - c 基準病床数の設定
 - d 二次医療圏の設定
 - e 地域医療支援病院の整備
- 19 自律神経障害による突然死に最も注意すべきなのはどれか。
- a 多系統萎縮症
 - b 多発性硬化症
 - c 周期性四肢麻痺
 - d Alzheimer 型認知症
 - e 筋萎縮性側索硬化症
- 20 身長について誤っているのはどれか。
- a 出生時の平均は 50 cm である。
 - b 出生時は 4 頭身である。
 - c 11 歳の女兒は男児より高い。
 - d 12 歳で出生時の 3 倍になる。
 - e 思春期に 1 年間の伸び率が最大になる。

- 21 新生児期に死亡率が最も高い先天性疾患はどれか。
- a 口蓋裂
 - b 頸部リンパ管腫
 - c 臍帯ヘルニア
 - d 尿道下裂
 - e 鎖 肛
- 22 母体の抗 SS-A 抗体のクラスで新生児の心拍数に異常をきたすのはどれか。
- a IgA
 - b IgD
 - c IgE
 - d IgG
 - e IgM
- 23 皮膚検査の陽性所見の写真(別冊 No. 1)を別に示す。
この検査はどれか。
- a 針反応
 - b 硝子圧法
 - c 皮膚描記法
 - d 皮内テスト
 - e 光線テスト

別 冊

No. 1

24 検査用の試験紙(別冊 No. 2)を別に示す。

この試験紙を用いて診断するのはどれか。

- a 妊娠悪阻
- b 前期破水
- c 妊娠糖尿病
- d 羊水過多症
- e 妊娠高血圧症候群

別 冊

No. 2

25 経口摂取ができない高齢者の栄養管理について正しいのはどれか。

- a 経鼻胃管からは水分投与を行わない。
- b 経管栄養開始時は徐々に投与量を増やす。
- c 静脈栄養療法時には口腔ケアは不要である。
- d 静脈栄養療法時には脂肪製剤を使用しない。
- e 経管栄養開始後は嚥下機能評価を行わない。

26 一般的に異所性移植が行われるのはどれか。

- a 肺
- b 心 臓
- c 肝 臓
- d 脾 臓
- e 小 腸

27 脳血管障害とその治療の組合せで適切なのはどれか。

- a もやもや病 ————— 動脈塞栓術
- b ラクナ梗塞 ————— 経皮血管形成術〈PTA〉
- c くも膜下出血 ————— 動脈瘤塞栓術
- d 心原性脳塞栓 ————— 頸動脈内膜剝離術
- e 高血圧性脳出血 ————— 血栓溶解療法

28 右中殿筋不全患者の歩行時にみられるのはどれか。

- a 体幹を前に傾ける。
- b 右下肢を分回しする。
- c 右大腿部遠位に手を当てる。
- d 左右の下肢を側方に広げる。
- e 右立脚時に骨盤を左側に傾ける。

29 平成 20～24 年の社会状況で正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a 完全失業率は 2 % 以下である。
- b 非正規雇用の割合は増加している。
- c 完全失業率は 40～50 歳が最も高い。
- d 父母がいる児童の世帯の約 80 % で父母とも仕事をしている。
- e 児童のいる世帯の母の仕事は正規雇用より非正規の割合が高い。

- 30 健康増進法に規定されているのはどれか。2つ選べ。
- a 健康診査の実施
 - b 母子健康手帳の交付
 - c 市町村保健センターの設置
 - d 国民健康・栄養調査の実施
 - e 認知症の予防に関する調査研究
- 31 学校医の職務はどれか。2つ選べ。
- a 健康相談
 - b 児童養護
 - c 処方箋交付
 - d 学級閉鎖指示
 - e 学校保健計画の立案に参加
- 32 心臓について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 僧帽弁は半月弁である。
 - b 三尖弁には腱索が付着する。
 - c 僧帽弁前尖は左室流出路を形成する。
 - d 僧帽弁のすべての腱索は1本の乳頭筋に付着している。
 - e 肺動脈弁と大動脈弁とは線維性組織を隔てて隣接している。

- 33 造血部位の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 胎芽 —— 卵黄囊
 - b 乳児 —— 肝臓
 - c 小児 —— 骨髄
 - d 成人 —— 脾臓
 - e 高齢者 —— 胸腺
- 34 胎盤について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 脱膜は胎児由来の組織である。
 - b 受精後8週ころ形態的に完成する。
 - c 絨毛間腔は母体血液で満たされている。
 - d hCGは合胞体栄養膜細胞から分泌される。
 - e 妊娠末期の厚さは中央部で6cmを超える。
- 35 児への直接の授乳を避けることで母乳を介した母子感染予防効果がある病原体はどれか。2つ選べ。
- a E型肝炎ウイルス
 - b インフルエンザウイルス
 - c ヒト免疫不全ウイルス(HIV)
 - d ヒトパピローマウイルス(HPV)
 - e ヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV-I)

36 婦人科疾患と帯下の特徴の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 細菌性膣症 ————— 黄色調
- b 萎縮性膣炎 ————— 淡血性
- c 膣カンジダ症 ————— 泡沫状
- d クラミジア頸管炎 ————— 膿 性
- e トリコモナス膣炎 ————— 酒粕状

37 がんの緩和医療について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 遺族へのグリーフケアを含む。
- b 医療用麻薬は在宅医療では用いない。
- c 精神的苦痛は全人的苦痛の一つである。
- d 緩和ケアはがん終末期に限定された医療である。
- e WHO 方式では睡眠時の鎮痛を最終目標としている。

38 閉塞性ショックをきたすのはどれか。3つ選べ。

- a 肺塞栓症
- b 消化管出血
- c 緊張性気胸
- d 心タンポナーデ
- e アナフィラキシー

39 Kiesselbach 部位から出血している高齢者に聴取すべき既往はどれか。3つ選べ。

- a 脳梗塞
- b 白内障
- c 高血圧症
- d 肝機能障害
- e 慢性閉塞性肺疾患

40 84歳の女性。全身倦怠感と食欲不振とを主訴に来院した。6か月前に肺転移を伴う高度進行胃癌の診断を受けた。抗癌化学療法などの積極的治療を拒否し自宅で療養していたが、2週前から倦怠感が出現し、徐々に食欲の減退を自覚するようになったため受診した。現在は薬剤の内服と1日600kcal程度の軟らかい食事の摂取は可能である。がんによる悪液質が進行しており余命は1か月程度と考えられる。長男夫婦と3人暮らしで患者本人と家族はともに延命治療を望まず、このまま自然に任せることを希望している。

今後の方針として適切なのはどれか。

- a 在宅での看取り
- b 外来での末梢静脈栄養
- c 在宅での経鼻経管栄養
- d 在宅での中心静脈栄養
- e 入院での経皮的内視鏡下胃瘻造設

41 60歳の男性。1か月前から続く咳嗽を主訴に来院した。身長165 cm、体重70 kg。血圧120/82 mmHg。喫煙は20本/日を40年間。飲酒は日本酒1合/日を30年間。運動は通勤時に1日平均5,000歩。胸部エックス線写真と喀痰細胞診とに異常を認めない。

咳嗽の治療とともに指導すべきなのはどれか。

- a 「塩分制限が必要です」
- b 「お酒はビールに変えましょう」
- c 「体重を15 kg減らしましょう」
- d 「2万歩を目指して頑張りましょう」
- e 「60歳からでも禁煙は遅くありません」

42 6歳の女児。発達の遅れを心配した母親に連れられて来院した。乳幼児期から言葉や歩行の発達が遅れ、知的障害を伴っていた。遺伝性の疾患が心配で受診が遅れたが、地域に同じような症状を訴える人がいることがわかり心配になって受診した。妹も同じ症状がある。感染症を示唆する所見はない。医師が相談した保健所のその後の調査により、言語障害、歩行障害および知的障害のいずれかを認める多数の患者の存在が次第に明らかになった。患者が居住する人口約10万人の湾岸地域における環境汚染物質による曝露が疑われるが、原因は特定できていない。

このような状況で、患者集団に対する初期の対応として適切なのはどれか。

- a 地域住民の集団移転
- b 裁判による患者認定
- c 患者の生体試料の収集
- d 患者と家族の遺伝子検査
- e 行政による被害認定のための審査

43 生後3日の新生児。体動は活発で泣き声は強く哺乳も良好である。外表に奇形を認めない。

この児に合致しないのはどれか。

- a 胸式呼吸
- b Moro 反射陽性
- c 安静時心拍数 120/分
- d 大泉門は対角 3×3 cm 開大
- e 肝を右鎖骨中線上肋骨弓下に 1 cm 触知

44 89歳の女性。大腿骨骨折で入院中である。10年前に Alzheimer 型認知症と診断され内服治療中である。2日前に室内で転倒し動けなくなり救急車で搬送された。左大腿骨転子部骨折を認め、昨日、骨接合術を受けた。手術当日の経過は順調で夜間も良眠した。術後1日目の夕方から落ち着かなくなり、夜になって立ち上がろうとして一晩中大声で看護師を呼び続けた。

対応として適切なのはどれか。

- a 強く叱責する。
- b 疼痛管理を見直す。
- c 体幹抑制を終日行う。
- d ナースコールを取り外す。
- e 同様に叫ぶ患者と同室にする。

45 34歳の男性。全身の皮疹を主訴に来院した。数年前から白色の鱗屑を伴う紅斑が体幹と四肢とに多数みられ痒みを伴っていた。1か月前から皮疹が増加したため受診した。背部の写真(別冊 No. 3)を別に示す。

この患者でみられるのはどれか。

- a Darier 徴候
- b Köbner 現象
- c Leser-Trélat 徴候
- d Nikolsky 現象
- e Tinel 徴候

別 冊

No. 3

46 70歳の女性。咳嗽、喀痰および息切れを主訴に来院した。6年前から咳嗽と喀痰とを自覚していた。1年前から坂道や階段を昇るときに呼吸困難を感じるようになり、風邪をひくと喘鳴が出現することがあった。1か月前から100 m歩くと息切れを自覚し休むようになったため受診した。喫煙は20本/日を45年間。身長153 cm、体重42 kg。脈拍88/分、整。血圧134/84 mmHg。呼吸数24/分。頸部の胸鎖乳突筋が肥大し、吸気時に肋間や鎖骨上窩の陥入がみられる。呼気は延長し、聴診では呼吸音の減弱がみられるが副雑音は聴取しない。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 過敏性肺炎
- b 気管支拡張症
- c 肺血栓塞栓症
- d 特発性肺線維症
- e 慢性閉塞性肺疾患

47 35歳の女性。未経妊。挙児を希望して来院した。月経周期は28日型、整。基礎体温は二相性。既往歴に特記すべきことはない。経腔超音波検査で子宮に異常を認める。子宮卵管造影像(別冊 No. 4)を別に示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 子宮奇形
- b 子宮筋腫
- c 子宮腺筋症
- d 子宮内膜炎
- e 子宮内膜ポリープ

別冊

No. 4

48 79歳の男性。呼吸困難のため搬入された。10年前から高血圧症、脂質異常症および2型糖尿病で加療中である。1年6か月前に急性心筋梗塞を発症し、左前下行枝の完全閉塞に対しカテーテル治療を施行された。その後、抗血小板薬、利尿薬および β 遮断薬を投与され、日常生活で心不全の症状を認めなかった。数日前から労作時の息切れを自覚し、数時間前から安静時にも強い呼吸困難を生じたため救急搬送された。意識は清明。脈拍104/分、整。血圧154/102 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂100% (リザーバー付マスク10L/分酸素投与下)。心尖部を最強点とするIV/Vの収縮期雑音を聴取する。両側の胸部にcoarse cracklesとwheezesとを聴取する。血液生化学所見：AST 22 IU/L、ALT 19 IU/L、LD 218 IU/L (基準176~353)、CK 52 IU/L (基準30~140)、脳性ナトリウム利尿ペプチド〈BNP〉952 pg/mL (基準18.4以下)。胸部エックス線写真(別冊 No. 5A)と心エコー図(別冊 No. 5B)とを別に示す。

呼吸困難の原因として考えられるのはどれか。

- a 心室中隔穿孔
- b 心タンポナーデ
- c 三尖弁閉鎖不全症
- d 僧帽弁閉鎖不全症
- e 大動脈弁閉鎖不全症

別冊

No. 5 A、B

49 28歳の男性。右頸部腫瘍を主訴に来院した。2か月前から右頸部腫瘍が増大し、1週前から発熱が出現したため受診した。体温38.2℃。右頸部と左鎖骨上窩とに径3cmの圧痛のないリンパ節を2個触知する。頸部リンパ節生検で、びまん性大細胞性B細胞型リンパ腫と診断された。PET/CTでは右頸部、左鎖骨上窩および縦隔に取り込みを認めた。

治療開始に際して適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 治療は無菌室が空くのを待ち行う。
- b 拳児希望であったので精子保存をする。
- c 病状の説明に主治医の他に看護師も同席する。
- d 後方視的臨床研究の結果をもとに治療計画を立てる。
- e セカンドオピニオンを希望したので自分の父親が経営する病院を紹介する。

次の文を読み、50～52の問いに答えよ。

43歳の男性。発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 半年前から全身倦怠感を自覚していた。1か月前から37℃前半の微熱と乾性咳嗽とが出現した。2週前に自宅近くの診療所を受診し総合感冒薬を処方されたが改善しなかった。そのころから体温は38℃を超えるようになり、1週間前から階段昇降時に呼吸困難を自覚するようになった。精査のため診療所から紹介されて受診した。

既往歴 : 22歳時にB型急性肝炎。35歳時に帯状疱疹。

生活歴 : 会社員。独身。一人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親がうつ病で通院治療中。

現症 : 意識は清明。身長173cm、体重58kg(半年前は68kg)。体温38.6℃。脈拍96/分、整。血圧104/58mmHg。呼吸数20/分。SpO₂94%(room air)。前額と鼻唇溝とに黄白色の鱗屑を伴う紅斑を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内に多発する白苔を認める。頸静脈の怒張を認めない。径1～2cmのリンパ節を右頸部に7個、左頸部に5個触知する。心音に異常を認めない。両側の胸部にfine cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音は正常である。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球454万、Hb15.1g/dL、Ht42%、白血球3,100、血小板12万。血液生化学所見：総ビリルビン0.9mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL。免疫血清学所見：CRP0.6mg/dL、β-D-グルカン486pg/mL(基準10以下)。動脈血ガス分析(room air)：pH7.47、PaCO₂34Torr、PaO₂76Torr、HCO₃⁻24mEq/L。胸部エックス線写真(別冊No.6A)と胸部CT(別冊No.6B)とを別に示す。

別冊

No. 6 A、B

50 この患者の白血球分画で割合が減少しているのはどれか。

- a 単球
- b 好酸球
- c 好中球
- d 好塩基球
- e リンパ球

51 肺病変の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 結核菌
- b カンジダ
- c トキソプラズマ
- d ニューモシスチス
- e サイトメガロウイルス

52 口腔内の白苔に対する治療薬はどれか。

- a ST 合剤
- b アシクロビル
- c イソニアジド
- d アムホテリシン B
- e ペニシリン系抗菌薬

次の文を読み、53～55の問いに答えよ。

81歳の男性。発熱を主訴に来院した。

現病歴 : 5日前から37℃台の発熱が出現し、3日前から腰痛が出現した。腰痛は鈍痛で、運動時と安静時ともに自覚していた。自宅で様子を見ていたが改善しないため受診した。

既往歴 : 61歳から糖尿病のため内服加療中。

家族歴 : 父親が胃癌。母親が大腸癌。

生活歴 : 妻との2人暮らし。海外渡航歴はない。

現症 : 意識は清明。身長165 cm、体重57 kg。体温38.2℃。脈拍96/分、整。血圧138/80 mmHg。呼吸数22/分。SpO₂ 98 % (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腰部正中に叩打痛を認める。足背動脈の触知は良好で左右差を認めない。下腿に浮腫を認めない。神経学的所見に異常を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体1+、潜血(-)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球476万、Hb 12.9 g/dL、Ht 40 %、白血球13,300(桿状核好中球32 %、分葉核好中球54 %、好酸球1 %、好塩基球1 %、単球2 %、リンパ球10 %)、血小板43万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、直接ビリルビン0.3 mg/dL、AST 30 IU/L、ALT 28 IU/L、LD 170 IU/L(基準176～353)、ALP 402 IU/L(基準115～359)、 γ -GTP 49 IU/L(基準8～50)、アミラーゼ121 IU/L(基準37～160)、CK 58 IU/L(基準30～140)、尿素窒素19 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、尿酸7.1 mg/dL、血糖148 mg/dL、HbA1c 8.5 % (基準4.6～6.2)、総コレステロール199 mg/dL、トリグリセリド180 mg/dL、Na 130 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 98 mEq/L。CRP 3.2 mg/dL。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.37、PaCO₂ 36 Torr、PaO₂ 98 Torr、HCO₃⁻ 20 mEq/L。12誘導心電図で異常を認めない。胸部エックス線写真に異常を認めない。腹部CTに異常を認めない。腰部MRI(別冊No.7A、B)を別に示す。

別冊

No. 7 A、B

- 53 この患者の状態はどれか。
- a 髄膜炎
 - b 脊髄炎
 - c 腎盂腎炎
 - d 腸腰筋膿瘍
 - e 化膿性脊椎炎
- 54 4時間後、検査室から血液検体で Gram 陽性球菌が検出されたとの報告があった。
この時点で追加すべき検査はどれか。
- a 血管造影
 - b 膀胱鏡検査
 - c 頭部造影 CT
 - d 心エコー検査
 - e 脳脊髄液検査
- 55 原因菌として最も考えられるのはどれか。
- a 腸球菌
 - b 溶連菌
 - c 髄膜炎菌
 - d 肺炎球菌
 - e 黄色ブドウ球菌

次の文を読み、56～58の問いに答えよ。

67歳の男性。人間ドックで異常を指摘され来院した。

現病歴 : 5年前に退職してから健康診断を受けていなかった。妻に勧められて初めて受診した人間ドックで肥満、耐糖能障害および脂質異常症を指摘され、妻とともに来院した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が胃痛。

現症 : 意識は清明。身長170 cm、体重80 kg。体温36.5℃。脈拍68/分、整。血圧130/94 mmHg。呼吸数18/分。眉弓部の膨隆、下顎の突出、鼻と口唇の肥大および巨大舌を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に発赤を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。手足の体積の増大を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腱反射に異常を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、ケトン体(－)、潜血(±)、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球487万、Hb 14.6 g/dL、Ht 43%、白血球4,000、血小板23万、PT 115% (基準80～120)。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン0.6 mg/dL、AST 21 IU/L、ALT 28 IU/L、LD 185 IU/L (基準176～353)、ALP 277 IU/L (基準115～359)、 γ -GTP 34 IU/L (基準8～50)、アミラーゼ76 IU/L (基準37～160)、CK 135 IU/L (基準30～140)、尿素窒素14 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL、尿酸5.9 mg/dL、血糖127 mg/dL、HbA1c 7.0% (基準4.6～6.2)、トリグリセリド162 mg/dL、HDL コレステロール75 mg/dL、LDL コレステロール146 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 4.6 mEq/L、Cl 102 mEq/L、Ca 9.3 mg/dL、P 4.0 mg/dL、TSH 0.6 μ U/mL (基準0.4～4.0)、FT₄ 1.1 ng/dL (基準0.8～1.8)。心電図に異常を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比54%。頭部エックス線写真(別冊 No. 8)を別に示す。頭部MRIで下垂体に限局した腫瘤を認める。

別 冊

No. 8

- 56 この患者に行うべき検査として**有用でない**のはどれか。
- a GH の測定
 - b プロラクチンの測定
 - c フロセミド負荷試験
 - d 75 g 経口グルコース負荷試験
 - e インスリン様成長因子 - I (IGF- I) の測定
- 57 現時点で行うべき治療はどれか。
- a 抗癌化学療法
 - b 経蝶形骨洞手術
 - c 定位的放射線治療
 - d ドパミン作動薬投与
 - e GH 受容体拮抗薬投与
- 58 今後の経過中に起こりうる合併症として**考えにくい**のはどれか。
- a 大腸癌
 - b 高血圧症
 - c 縦隔腫瘍
 - d 虚血性心疾患
 - e 睡眠時無呼吸症候群

次の文を読み、59～61の問いに答えよ。

78歳の女性。右利き。会話が困難になったため搬入された。

現病歴 : 今朝、食事中に会話のつじつまが合わないことに家族が気づき、改善がみられないため救急車を要請した。昨夜の就寝までは異常はなかったという。

既往歴 : 50歳時の健康診断で耐糖能異常を指摘されたがそのままにしていた。

生活歴 : 息子夫婦と3人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 両親ともに高血圧。父親が脳出血で死亡。

現症 : 意識は清明。身長148 cm、体重43 kg。体温36.1℃。脈拍104/分、不整。血圧152/74 mmHg。呼吸数16/分。過剰心音と心雑音とを認めない。呼吸音に異常を認めない。発語は流暢であるが、錯語がみられ、言語理解が悪く、物品呼称も障害されている。復唱は可能である。読字は困難で、書字は可能であるが文意がとれない。構音障害を含め脳神経に異常を認めない。四肢の運動系と感覚系に異常を認めない。腱反射は正常で、Babinski徴候は陰性。

検査所見 : 尿所見に異常を認めない。血液所見：赤血球412万、Hb12.1 g/dL、Ht40%、白血球6,300、血小板20万、PT-INR(prothrombin time-international normalized ratio)1.09(基準0.9～1.1)、APTT24.3秒(基準対照32.2)、血漿フィブリノゲン306 mg/dL(基準200～400)、Dダイマー2.2 μg/mL(基準1.0以下)。血液生化学所見：総蛋白6.1 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、AST26 IU/L、ALT18 IU/L、LD232 IU/L(基準176～353)、血糖138 mg/dL、HbA1c6.6%(基準4.6～6.2)、トリグリセリド154 mg/dL、HDLコレステロール38 mg/dL、LDLコレステロール143 mg/dL。12誘導心電図で心房細動を認める。胸部エックス線写真で心胸郭比52%。心エコー検査で左室壁運動は良好で、弁膜症を認めない。頸動脈エコー検査で左右とも有意な狭窄を認めない。頭部MRIの拡散強調像(別冊No.9 A、B)を別に示す。同時に行った頭部MRAに異常を認めない。

別冊

No. 9 A、B

- 59 この患者の失語はどれか。
- a 全失語
 - b 伝導失語
 - c Broca 失語
 - d Wernicke 失語
 - e 超皮質性感覚失語
- 60 病変部位はどれか。
- a 島
 - b 前頭葉
 - c 頭頂葉
 - d 後頭葉
 - e 淡蒼球
- 61 治療として適切なのはどれか。
- a 抗凝固療法
 - b 血栓溶解療法
 - c 抗血小板療法
 - d 抗脳浮腫療法
 - e ステント留置術

62 Na 濃度 50 mEq/L の液 500 mL に 10 % NaCl 液 20 mL を追加したときの Na 濃度を求めよ。

ただし、NaCl 1 g は Na 17 mEq に相当するものとし、追加後の体積は 520 mL とする。

また、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第 1 位を四捨五入すること。

解答： mEq/L

- | ① | ② | ③ |
|---|---|---|
| 0 | 0 | 0 |
| 1 | 1 | 1 |
| 2 | 2 | 2 |
| 3 | 3 | 3 |
| 4 | 4 | 4 |
| 5 | 5 | 5 |
| 6 | 6 | 6 |
| 7 | 7 | 7 |
| 8 | 8 | 8 |
| 9 | 9 | 9 |

